



# 消費税は **社会保障の 財源調達に** ふさわしい税金か

## ◆ 社会保障制度のための安定財源 ◆

国民が広く受益する社会保障の費用をあらゆる世代が広く公平に分ち合い、社会保障の安定した財源を確保する観点から、消費税を社会保障の財源としています。

### なぜ、消費税なのか？

- 景気や人口構成の変化に左右されにくく、税収が安定している
- 働く世代など特定の人に負担が集中することなく、経済活動に中立的
- 高い財源調達力がある



**社会保障の財源を調達する手段としてふさわしい税金**

消費税を「社会保障の財源を調達する手段としてふさわしい税金」とする北区財政白書(2016年度版)

北区は、毎年発行している「ふるさと北区財政白書」で、消費税を「社会保障制度のための安定財源」などと紹介してきました。昨年度の財政白書からは、この記述が消えたため、私は決算特別委の質疑で「消費税に対する考えが変わったのか」と尋ねましたが、区の答えは「引き続き社会保障の財源を調達する手段としてふさわしいと考えている」というものでした。

しかし、消費税は所得の少ない人ほど負担が重くのしかかる、逆進性の強い税金です。「社会保障のため」などの口実で税率を引き上げたりすれば、消費不況をいよいよ深刻にし、貧困と格差の拡大に追い打ちをかけることは必至です。しかも、これまでの消費税増税では、社会保障の充実どころか、医療・介護・年金などの制度が、ことごとく改悪されてきているのが実態です。

税金は負担能力にに応じて、という原則に立ち、社会保障充実の財源には、富裕層と大企業に、もうけ相応の負担を求めないでしょうか。

## 決算特別委 での論戦より

安倍政権が来年10月から税率を10%に引き上げるとしている消費税。北区は決算特別委員会の中で「社会保障の財源を調達する手段としてふさわしい税金」などとのべましたが、果たして本当でしょうか。(のの山けん)

## 北区日韓親善協会がバスツアー



## きもの博物館を視察

14日、北区日韓親善協会の日帰りバスツアーに参加。視察に訪れた「青梅きもの博物館」には、日本の皇族でありながら日韓併合後の政略結婚で旧大韓帝国皇子に嫁ぎ、「韓国の母」と呼ばれた李方子(り・まさこ、イ・バンジャ)氏にまつわる品々も展示されていました。

昼食は多摩川の清流が目の前に広がる「ままごと屋」で。楽しい一日でした。(のの山けん)

